



前進座公演

三遊亭圓朝原作 平田兼三脚色

人情噺 文七元結

「ぶんしちもつとい」

左官長兵衛 藤川矢之輔

女房お兼 早瀬栄之丞

和泉屋手代文七 忠村 臣弥

娘お久 有田 佳代

併演 歌舞伎の楽しさ

2月 1日 (月)・2月 2日 (日)

開場 18:00 開演 18:30 開場 12:30 開演 13:00

◇ 他団体の例会日程 ◇

清水	2月 7日 (日)	18:30	沼津・伊豆	2月 6日 (土)	18:30
静岡	2月 4日 (木)	18:30			
	2月 5日 (金)	13:00			

他団体での観劇を希望される方は、事務局までご連絡ください。

原作 三遊亭圓朝 脚色 平田兼三

人情噺 文七元結

ぶんしち もっとい



【あらすじ】

左官の長兵衛（矢之輔）は、腕はいいがバクチと酒にかまけて稼業はほったらかし。女房お兼（栄之丞）との間には喧嘩が絶えません。

娘お久（有田）は、そんな不和に心を痛めて、自ら吉原の遊女屋佐野槌に身を売って金を持えようとしています。娘の孝行に打たれた長兵衛は、すっかり目が覚め、懸命に働いて一年のうちに迎えにくると誓い、佐野槌から五十両を借り受けます。その帰り道、身投げしようとしている若い男文七（臣弥）を助けるのですが…。

上演時間
2時間 15分
休憩 15分

落語でも御馴染み、三遊亭圓朝の人情噺を芝居にした、笑いと涙にあふれた傑作。前進座では一九四七年の初演以来、八百回を超えて上演されてきた人気演目です。いじらしい真心に泣き、引っ込められない意地で笑い、いかにも江戸っ子らしい登場人物たちが繰り広げる心うるおす一幕をお楽しみください。

併演 歌舞伎の楽しさ

歌舞伎は、私たちの祖先が独自の様式を創り出し、庶民に愛されてきた世界に誇る日本の宝です。二〇〇九年には、ユネスコ世界無形文化遺産に登録されました。お芝居をご覧いただく前に… 歌舞伎のあれこれ、立ち回りに女方、音楽や舞台機構のことなど -- 歌舞伎の面白さを知ると、より豊かに歌舞伎を味わうことができます!!

出演者がみなさまを、歌舞伎の世界にご案内いたします。

人情噺 文七元結 配役表



娘 お久
有田佳代



女房お兼
早瀬栄之丞



左官長兵衛
藤川矢之輔



佐野槌
鍵手 お熊
家主 甚八
松涛喜八郎



佐野槌
抱新造待人
酒屋手代
玉浦有之祐



佐野槌
抱新造花香
駕籠かき1
上滝啓太郎



佐野槌
娘分 お光
清水麻美



佐野槌
女主人 お駒
山崎辰三郎



佐野槌
若い者 藤助
そば屋 与助
柳生啓介



町人2
駕籠かき2
和田優樹



町人1
鳶頭 伊兵衛
藤井偉策



和泉屋清兵衛
武井 茂



泉屋手代 文七
忠村臣弥

元結 (もとゆい・もっとい) とは

髪を根を結び束ねるのに用いる紐(ひも)のこと。「もっとい」ともいう。平安時代の垂髪に用いたことが絵巻物で見られるが、身分の低い者は、髪のを防ぎ意味から用いていた。古くは糸やこよりを用いた。垂髪が鬘(まげ)をつくる髪形に転じてから、こよりにさまざまな変化を生じ、幅の広い平(ひら)元結は髪飾りとして用いられた。江戸中期に入ると、70センチメートルくらいにこよりを引き伸ばして、粘りとつやを出した文七元結(ぶんしちもっとい)が考案された。



『旅立つ家族』感想

国の方針に従わなければならなかった時代を迫力ある演技で表現されてとても感動しました。岳南朝日の投稿でこの作品を知りよかったと思います。劇団の方々もこんな時代になり大変だと思いますが、頑張っていただきたいと思います。

まず、迫力に度肝を抜かれました。猪犬かしら？演出で色々に分解されて面白いと思いました。皆さん声はつきりしていても聴きやすかったです。南北の分裂がそこにあるよくわかりました。

韓国と日本の関係は今も昔もあまり変わっていないですね。一番近い外国なのだから、お互いを尊重しあってもう少し良い関係になれたらと改めて思いました。

迫力のある、イ・ジョンソプの絵画とエネルギーシユな舞台に圧倒されました。生きていくのも大変な時代に、人々は熱い心を失わずに真つすぐに突き進んでいくことに感動しました。面白い舞台セット、声がよく通る佐々木愛さん、たたくまいも素晴らしい存在でした。

芸術家はいつの世も大変。志だけでは生きていけないし。文化座の迫力ある舞台、演じる皆さんの顔が近くで観れてよかったです。

エネルギーシユな動き、歌、ダンスに圧倒されました。まだそれほど遠くない時代に、このような隣国の歴史があ

ったことが胸に沁みました。素晴らしい歌声、演技しつかり味わいました。すさまじい芸術家の生き方、家族愛、圧倒される演技、彼の絵を見に早速図書館に行ってみようかな。

苦しい時代を生き抜く大変さを感じられ胸を熱くしました。生き生きと動く役者の動きを、体全体で感じました。佐々木愛さんの姿にも心うたれました。良かったです。

激動の時代を生きていく人々の生命力がほとばしるような舞台でした。文化座の皆さんの熱演に拍手です。彼の絵を見たいです。

戦争の悲惨さと、強い家族の絆、朝鮮の結婚式の風景、ミュージカルのな芝居、なかなか良かったです。

見終えて胸が熱くなりました。動乱の時代を生きた一人の画家の話ではなく、なぜこのような画家がつくりだされたのかという時代背景が、場面転換でいいねいにつくられているなあと感じました。ヒーロー、ヒロインの演技の上手に加え、語り、それを支える他の多くの役者さんの変化の楽しさ、歌の上手さに心をぐつつかまれました。コロナで沈んだ気持ちから、明日からまた頑張ろうという気持ちにしてくれました。ありがとうございます。

期待通りの素晴らしい舞台でした。歌と踊りを交えて、ドラマチックなお芝居を明るく時には熱く、文化座の新しい一面が見られました。

運営担当の声感想

舞台が始まると二頭の牛が壮絶に戦う迫力に圧倒されスベクタクル映画を観ているような錯覚をしてしまいました。この二頭の牛はその間に挟まれて苦悩するイ・ジョンソプの姿を見ているうちに朝鮮半島の南北を表していることが最初わからなかったのですが、舞台が進んでいくうちに分かりました。南北戦争とイ・ジョンソプの苦悩を同時に表現することは、舞台だからこそで、映画ではできないと思いました。

イ・ジョンソプが絵画を深く愛した理由は故郷の牛を描いたことから判断して、生まれ変わった故郷を愛しているのだという自己表現だったと思います。そのイ・ジョンソプが絵画に打ち込む姿に共感し、大黒柱の様に支えたのが山本方子でした。幾多の困難を共に乗り越える生き方もまた素晴らしいと思いました。

方子は絵画を残していないけれど、イ・ジョンソプという人物を描いた素晴らしい芸術家だったと思います。彼は本当は家族と共に生きたかったというところが、最後に家族を牛車に乗せて引く場面で分かりました。ミュージカル要素を取り入れることで、明るさを取り入れ、戦争で家族を裂かれ、また絵も自由に描くことを制限されとかく暗くなりがちな舞台を救ってくれました。このお芝居のストーリーは、緻密に仕組まれた文化座の代表作といえる秀作の舞台となりました。余

談ですが、私も仕事で苦しい時カミさんに励まされて勇気をもらったことがあったなあと山本方子の生き方を見て思い、感謝しなければと思います。(紙風船)

会場に入ると舞台背景に映し出されたジョンソプの描いた大きな赤い牛が目飛び込んできた。ジョンソプは小さいときから牛の絵を描くのが好きだったという。牛はジョンソプにとって、朝鮮半島そのものであり、自分の魂の在り処として、象徴的に描かれている。

大勢の役者が大きな牛のパーツをぶつつけるように寄せては離れ離れては寄せ、歌って踊る場面に圧倒された。方子の両親がひとり娘を東京から朝鮮に送り出す場面に心打たれた。この時代に日本人の女性が朝鮮人の青年と結婚することは大変なことだったと思うが、偏見や差別に捉われず、親として娘を信頼し、娘の幸せを一番に考えてくれたのだ。それにしても若い女性が戦時下に単身、はるばる汽車と船を乗り継いで見知らぬ土地に恋人を追っていくとは、愛の力は無限だと思つた。ジョンソプの母も方子の両親と同様に、世間や国家の意向よりも息子の気持ちを大事に考える人だった。

今、韓国と日本の関係を考えるとき国家間の思惑、政治の駆け引きに惑わされることなく、人と人との関係、個人の思いを大事に考えるようにというメッセージを受け止めた気がする。

南北の分断、朝鮮戦争と続く時代の波に翻弄されて、家族は離れ離れになる。朝鮮に一人取り残ったジュンソプは苦難の末、身も心もポロポロになり、39歳でこの世を去る。スターリンの肖像を描くように強要され、「知らないものは描けない」と断り「自分の描きたいものを描きたいんだ」という場面には、画家としての矜持がにじみ出ていた。日本にいた時から、自分は朝鮮でしか描けないと言っていたジュンソプにとつて、冒頭の赤い牛の絵は自分のうちからわき上げってくる魂の叫びだったのだろう。ジュンソプが本当に描きたかった絵はそういう絵なんだと思う。最後にジュンソプが二頭の死に挟まれてせめぎ合う凄まじい場面は、祖国が呑み込まれ、分断されて、家族と芸術が引き裂かれた苦しみと心の戦いを象徴しているのだと思う。

観終わって演劇の素晴らしさを再確認した。人間の内面に迫るぎりぎりのところが役者の新体制を通して伝わってくる。まさに一期一会の体験をさせてもらった。コロナで心が委縮してしまいがちだったが、演劇に力をもらった。

(こぶ茶の会)

素晴らしい舞台でした。2015年初演時のDVDを前もって観ていましたが、今回上演されたものはこれとは比較にならないほど鮮明で印象的かつ臨場感に満ちていました。

まず、音響がいい。聞けば音響を作成した本人が旅に同行、操作を担当し

ていたそうであるほどなど思いました。劇の冒頭の牛の戦いのシーンの迫力にはこの音響の力が大きく寄与しています。それから、舞台装置と照明もいい。単純化され様々な使われ方をしている装置は現実性に欠けるものになりがちですが、照明の効果もあつて専門に作つたものと遜色のない具体性を發揮していました。また、衣装も戦前の朝鮮の農村、日本、済州島、戦後の釜山と移り変わる時代と土地の雰囲気をつくまわっていました。

若手の団員が渾身の気迫の演技を見せればベテラン陣は達者な芝居で物語を紡いでゆきます。そして、白眉は藤原章寛さん。立ってるだけで様になりますね。その立ち姿や素早い動きはどこことなく古武術の雰囲気があります。感情表現も豊かで日本人離れています。目が離せませんでした。

観終わったあと初演時とはずいぶん演出が工夫されていることに気が付きました。5年間公演を重ねる意味がここにあります。物語が熟成されより容易に感情移入することが出来るようになっていきます。酒場の女主人の歌も初演時から追加されたものでした。

もしかしたら、コロナ禍があつたせいで我々も劇団もより新鮮な気持ちで芝居というものに向き合えたのかもしれません。なら、やはり人間万事塞翁が馬なんですね。

(創炎)

運営サークル活動に参加して

本来は『きらめく星座』の担当でしたが、一回目の集いの後、クリ活動をしなればと思っていた矢先コロナにより上演中止となりその後の運営サークル会は行いませんでした。それで今回果せなかつた役割を果たすべく『旅立つ家族』の担当サークルに組み入れていただき参加しました。富士宮から参加のサークルも何組かありその中の2名がとても積極的で頼もしく思いました。私の仲間4人のうち1人がコロナの関係でドクターストップがかり、何とか3人でクリアをした活動しました。7人の方に声掛けしましたが体がよく断られました。私は今年「地域の障害学習活動」の役を引き受けているので、ここで声をかけようと思っていたのが、コロナ禍で全く集まりがなく、声掛けできず残念に思っています。

それでも何とか『富士山演劇鑑賞会』を知ってもらおうべく広報活動として事務所に「のぼり旗」を置くことを考えました。8月の暑さの中、汗をかきながら大小6本を作製し事務所に渡しました今回クリアの成果が出なかつたけれど、これに懲りずまた声掛けをしていこうと思つています。

(紙風船)

「旅立つ家族」の運営に参加しました。私の最初の運営希望は「きらめく星座」でしたが、コロナ第一波の襲来で休会になり運営サークルも顔合わせ

だけで終わってしまいましたのでリベンジです。今回は第二波の流行もそこそこ収まって会場の使用制限がいつまで続くのか期待感すら持つていました。しかも次回の「センポ・スギハラ」は休会の予定でお誘いのパンフも臨時版です。ですが、我々は立ち止まるわけにはいきません。我々以上に劇団やスタッフ、キャストも辛い毎日を送っています。今こそ日本の演劇文化を支える行動が求められています。

幸いにも今回は地元富士宮出身の高橋美沙さんが主演で、彼女が地元で関係している高齢者演劇集団の方々も観劇を希望、入会が期待できます。そんな中活動を行いました。やはり難しい部分はありました。ただ、今回は無理でも次回に繋げるお知らせプラスの活動は出来ました。今だからこそ劇団を支える鑑賞会の存在意義を語れたと思います。

サークル活動の終盤で別会場で鑑賞した仲間から素晴らしい作品だという情報もあり集いのムードも高まりましたが、残念ながら例会クリアには至りませんでした。しかし、高橋さんのおかげで二桁の入会者があり次回につながる活動になりました。

寒くなつたコロナの第三波がやってきました。これからどうなるのかわかりませんが夢と志を持って頑張る劇団を支える存在であり続けたいと思います。

(創炎)

富士宮と富士が一緒になり、担当の運営サークル数も増え、皆でわいわい楽しい雰囲気です。運営サークル会がスタートしました。

富士宮在住の高橋美沙さんが主演であるため、作品への期待も高まり、新しい仲間を増やしていこうと意欲的なサークルが集まりました。

第一回目では、共に頑張る仲間の紹介をいたしました。富士、富士宮初顔合わせも多く、でもここでお芝居や仲間のことを話す中で一気に距離が縮まりました。「何のために集まり何をするのか、理念と活動方針を担当役員が話しみんなで確認しました。」

第二回目は、目標を持ち寄りました。「コロナ禍の中では、なかなか入ってもらえない」という声が多い中、「声をかける人なら五人います」という発言に、「それなら私たちのところも」と、まず声をかけるところからと複数の目標が持てました。劇団の制作のメッセージを読み、作品について役員からの説明を聞き作品への期待がさらに高まりました。また、アマチュア劇団に所属する担当サークルからは、「美沙さんからも見てほしい」ということで劇団の仲間に声をかけていくということ、動きが出てきました。

第三回目は活動の様子を出し合いました。

富士宮からのサークルの方は、ローカル紙に「例会の感想を投稿している」それが市民の目に止まり入会の一助になればとの思いで毎回担当になった時書くとか、前回の掲載紙を、皆で回し読みしました。今回も投稿予定、そういう方法もあったのかと。みんなでどんなことができるか話し合いました。また、劇団の仲間に声掛けをし、新しいサークルをつくり九名の入会、刺激になりました。また、皆で人物相関図を作製しました。

第四回目、各サークル活動のようすを出し合う。「返事待ち」というサークルの結果に期待。また、ローカル紙に例会の記事を依頼。掲載後は、それをきっかけにもう一步踏み込んで話を進めていくと確認。残り二週間、もう少し積み上げていくことを確認し、当日の担当を決めました。

第五回目、入会一五名、担当サークルは3サークル11名、担当としてあともうひと踏ん張り、最後まで一人でも多く積み上げようと確認しました。

今回は、千種楽なので、メッセージボードをカーテンコールで掲げる、いつもの富士山のやり方。ボードを持つ人、当時の担当の確

認をしました。

まとめ

2時間45分の長さを感じさせない素晴らしい舞台、迫力と熱が伝わってきた。佐々木愛さんのナレーターも舞台と溶け合っただよかったです。

担当のWさんは約束通り、「演劇に力をもろう」というタイトルで「富士ニュース」に掲載されました。

前回の例会同様、静岡県内の鑑賞団体、劇団と心を合わせ、運営担当サークルとの連絡も密にして、万全の準備のもと、無事例会ができました。

作品が持つ力、役者の圧倒的なパワー、そこから多くのことを感じとり、

全身で受け止め、コロナ禍の中だからこそなのか、感性が研ぎ澄まされ生の演劇の持つ力を今まで以上に感じた例会でした。

サークル数	87
サークル増	1
サークル減	2
±	-1
会員総数	529
入会	15(2.7%)
退会	35(6.4%)
±	-20
例会参加率	86.8%

運営担当サークル	じゃがいも	パル	杏	紙風船	レモン	厚原薬局	はまかぜ	DEMBO
青い鳥	参和会	スカイブルー	ル・フラン	スイセン	こぶ茶の会	ミセスポテ	創炎	彩

運営担当サークルの皆さんお疲れさまでした

次例会のおしらせ

No.269 例会

2021年 4月 15日(木)

ロゼシアター大ホール

開場 18:00 開演 18:30

劇団NLT公演

しあわせの雨傘

作 / Barillet & Grédy

翻訳/佐藤 康 演出/鶴山 仁 美術/乗峯雅寛

照明/古宮俊昭 音響/小林史衣 衣装/倉岡智一

舞台監督/竹内一貴 演出助手/山上 優

出演/賀来千香子、永島敏行、井上純一、遠野凧子
小泉駿也、吉越千帆 他

しあわせの雨傘

大人のフレンチコメディの傑作！
日本初上陸！

「雨傘を差しても心が晴れやかになる」

とある町の、大きな傘工場の経営者夫人シュザン又は、メイドもいる専業主婦。

子育ても終わり、ポエムづくりとジョギングが日課。家事も仕事もなくて良い、と夫に言われる”お飾りの妻”となっていました。

そんな時、独善的な夫・ロベールが、傘工場のストライキで軟禁状態になってしまう。

そこでシュザン又は従業員に語りかけます。「私はピジョルの妻です。夫は私の経営者みたいなものでした。ですから、私は皆さんの立場がよくわかります。

ただ皆さんと違うのは、私にはストライキができないということです。」

喝采を受けるシュザン又。

彼女は“お飾り”ではなく素晴らしい実力を持った女性だったので。そして・・・。



— 2021年度 富士山演劇鑑賞会総会 —

- ◆ 21年度は、2月からスタートします。
- ◆ 20年度は、コロナと戦いつつ、皆で知恵を絞り万全の対策をし、劇団の協力のもと無事例会ができました。
- ◆ 全国の鑑賞団体120、どこからもコロナ感染者が出ていません。
- ◆ 21年度も厳しい状況が続くと思われませんが、生の舞台の素晴らしさ、劇場で仲間と空間を共有することの魅力を再認識し、21年度の活動をどう展開するか、協議します。
- ◆ 日時（3月下旬を予定）場所については検討中、決まり次第案内を出します。

重要なお知らせ

- ・会費納入 1月26日(火)～2月5日(金)
- ・退会締切 2月 9日(火)
- ・シール配券
『しあわせの雨傘』 3月17日(月)～19日(土)
3月22日(月)～26日(木)

- ★ 例会翌日は、事務局は休みです。
- ★ 毎月の会費納入は、基本的には 月末の25日～月初め5日 です。
※例会等の関係で変更になることがあります。
- ★ 例会運営サークルの集いの日程は、担当のサークルリーダーにお知らせします。

- ★ 退会する場合は、退会締切り日までに手帳裏表紙の退会届に必要事項を記入の上、事務局へ提出して下さい。
※電話やFAX、郵送での退会受付はできません。
※入会1年未満の方と退会締切り日後の退会は認められません。ご了承ください。

【事務局からのお願い】

不要になったハガキや切手がございましたら、例会会場、または、事務所にお持ちいただけると大変助かります。それぞれ未使用であればどんなに古いものでも結構です。

富士山演劇鑑賞会

富士市元町 12-26 田中ビル 101号
TEL 0545-63-9201 FAX 0545-62-1687
Eメール fj_simingekijou@ab.thn.ne.jp
http://web.thn.jp/ fj_simingekijou/
ホームページ [富士山演劇鑑賞会] で **検索**

観劇のマナーを守って 楽しく「かんげき」しましょう

- ・携帯電話の電源は切りましょう
- ・開幕前は静かに待ちましょう
- ・お話は上演終了後にゆっくりと
- ・客席での飲食はできません